

U U 編集後記 U U

年報の第三号をやつとここに出版することができました。幸いなことに第二号の評判は非常に良く在庫の分を確保するのに苦労するような嬉しい悲鳴をあげることが出来ました。また、懸念されていた資金面も一九八八年春の金沢文庫フィールドワークに予想を大幅に上回る参加者を得て、なんとか一息つくことが出来ました。

しかし、それだけに多くの人たちの期待と注目に応えられる質の高い年報を創るべく事務局は努力をしてみました。今年も本会は毎月の例会はもちろんのこと公開討論会やフィールドワーク、資料館の訪問と史料を読む会などの活動を行ってきました。しかし、例会である「『神奈川県史』を読む会」において長い間輪読を行ってきた『川崎警察署文書』の研究はまだまだまとまらず、今年から読み始めた『県史』海防・開国編はとも成果を求める段階ではなく、今年の本誌の編集は昨年より比べきらい苦しいものになりました。編集の一つの柱は、会員個人の研究成果の発表です。新井論文は氏の長年のテーマである海苔場漁業権を扱ったもので会誌に何回となく載せた成果をまとめられたものです。また、伊東論文は本会の活動の中でまとめた民権期の研究を発表されました。第二の柱は、毎年行っている合宿の成果の発表です。また、第三の柱として本会の活動を記録する側面として、これまでの会活動のまとめを行いました。おりしも世間では天皇の死去をめぐるさまざまな社会現象がおこりつつあります。一九八九年は、フランス革命二百年の年であると同時に帝国憲法発布百年の年でもあります。まさにこのような時代だからこそ社会を科学的に見つめる確かな目が必要になってきていると思います。今後本会の活動と本誌に対する忌憚のない批判をお願いする次第です。

(文責 大湖 賢一)

京浜歴史科研年報

第三号

発行日 一九八九年一月三十一日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒233 横浜市港南区港南台二一一九一四〇七
奥田晴樹方 Ⅷ〇四五一八三二一五二七七

(郵便振替口座 横浜七一一五五三五)

印刷 合資会社 横浜大気堂

横浜市中央区真砂町四一四〇